

所属 文学部 職名 教授

氏名 佐々木 紳

<研修概要>

本研修は「オスマン帝国における立憲主義の史的展開」を研究課題とし、研修期間中は東京大学東洋文化研究所の私学研修員として、オスマン帝国における立憲主義の史的展開、とくに近世から近代への移行期における動態の一端を明らかにすることを目標とした。

上記の目標に従い、研修期間の前半は近代におけるオスマンの立憲主義の史的展開の一端を探るべく、1876年のオスマン帝国憲法を起草した政治家ミドハト・パシヤ（1822-84年）の自伝について、科研費研究成果公開促進費を利用して訳文作成・校正作業を進め、2023年1月に刊行した（アフメト・シェフィク・ミドハト『ミドハト・パシヤ自伝：近代オスマン帝国改革実録』東京大学出版会、2023年）。同書については、2023年3月に東京大学東洋文化研究所で東文研セミナー「オスマン史研究と史料翻訳：『ミドハト・パシヤ自伝への道／からの道』」と題するブックトーク形式の報告をおこなった。ミドハト・パシヤについては、ほかにも2点、研修期間中に伝記的研究を発表した（「近代オスマン帝国の改革実践者」村田雄二郎ほか『アジアのかたちの完成』集英社、2022年；「中東近代の自伝と書簡：ミドハト・パシヤとその家族をめぐって」成蹊大学文学部学会編『歴史の蹊、史料の杜：史資料体験が開く日本史・世界史の扉』風間書房、2023年）。

研修期間の後半は、近世から近代への移行期におけるオスマンの立憲主義の動態を探るべく、近代以前のオスマン帝国における立憲主義的言説ないし現象を分析した話題作 Baki Tezcan, *The Second Ottoman Empire: Political and Social Transformation in the Early Modern World* (Cambridge, 2010) の翻訳に取り組み、共訳者とともに下訳を完成させた（2023年中に刊行予定）。関連して、2023年3月に東京大学東洋文化研究所でおこなわれた東文研セミナー “Pacific Rim Ottomanists’ Conference” に参加し、同書の著者バーキー・テズジャン氏（カリフォルニア大学デヴィス校教授）と意見交換をおこなった。

以上の作業を通して「オスマン帝国における立憲主義の史的展開」に関する実証的かつ最新の研究成果を得ることができた。この成果を発展させるかたちで、科研費への応募を予定する一方、ミドハト・パシヤの自伝の続刊の翻訳と刊行に向けて準備を進めたい。

以上